

いのち
生命のにぎわいとつながり

No.69

令和3年3月

「過去の日本の自然を見たい」——それは、生き物を愛する誰しもの心を一度はよぎる願いではないでしょうか。このたび、千葉県内で、75年前の九十九里浜の植生調査報告書が発見されました。そこには、現在では失われてしまった環境と生態系が詳細に記録されていました。本号では、その一端を巻頭より皆様にご紹介いたします。

75年前の植生調査報告書が物語るもの ～豊かな九十九里浜の記録～



左上 ヒメキンボウゲ、右上 シバナ、左下 ウンラン、右下 ハマハタザオ

昨年の12月、戦後まもなく九十九里浜で行われた植生調査の報告書が見つかりました。当時採取された植物の標本の束もありました。九十九里浜の北部、海岸に沿って約10kmの範囲での調査ですが、調査結果や標本から、当時の九十九里浜の植生が今よりもはるかに豊かであったことがわかりました。

CONTENTS

- 1 75年前の植生調査報告書が物語るもの ～豊かな九十九里浜の記録～ 1
- 2 カミツキガメ防除実施計画を改定しました 3
- 3 生命のにぎわい調査団員に聞く！③ 3
- 4 千葉県の外来種（クスベニヒラタカスミカメ） 4

人生長く生きていると、びっくりするような偶然や奇跡に一度ならず出会うことがあります。今回遭遇した発見も、タイミングと言う面では出来過ぎと言いたくなるものでした。

千葉県立中央博物館では、今年の3月から春の展示「九十九里浜の自然誌」が開催されています。一見砂しかなさそうな浜辺にも、いろいろな生き物や面白い現象が見られることを紹介する展示です。筆者もその主担当として、資料収集や事務書類の作成に追われる日々を送っています。その準備作業もまさに佳境に入った昨年の12月のことです。耳寄りな情報が飛び込んできました。県内の林業事務所の倉庫から、昭和21年(1946年)に行われた九十九里浜での植生調査の報告書が発見されたというものでした。



発見された昭和21年の植生調査報告書

博物館に持ち込まれたその資料を見ると、茶色く変色し、ふちもボロボロになった厚紙の表紙が目飛び込んできました。開けてみると、初代中央博物館館長であった故・沼田眞(当時は師範学校教官)の手書きの報告書が綴じてありました。罫線の入った原稿用紙を使って書かれていますが、その原稿用紙の隅に「陸軍」という文字が印刷されています。元陸軍の原稿用紙のようです。報告書の状態はよく、植物生態学者の沼田元館長だけあって、多角的に調

査をされていることがわかります。驚いたのはその報告書だけではありません。当時採取した植物の標本の束まであったのです。押し葉にされた植物が台紙にしっかりと貼り付けられていて、新聞紙に挟まれていました。戦後すぐの標本であることを物語るように、新聞紙には「サイパン、テニヤン急襲」や「神風特攻隊」の文字が躍っています。



当時採取された植物標本

調査した範囲は、現在の匝瑳市長谷から山武市蓮沼のあたりで、長大な九十九里浜の一部です。それでも、報告書に書かれている当地の植物のリストや標本から、当時の九十九里浜は、今よりはるかに植生が豊かであったことが読み取れました。標本やリストの中には、今でも九十九里浜に生育している、ハマヒルガオやコウボウムギ、ハマボウフウの名前はもちろんありますが、九十九里浜では見つからない、もしくは極めて希少な砂浜特有の植物も複数挙げられています。ウンラン、ハマハタザオ、ビロードテンツキ等です。ウンランは、九十九里浜等でわずかに生育していた記録はありますが、県内では、現在絶滅していると思われます。ハマハタザオも、九十九里浜に生えていたわずかな記録があり、筆者自身も、九十九里浜南部で一度だけ見たことがありますが、もう侵食で消えてしまっているかもしれません。ビロードテンツキは、今でも狭い範囲に生育していますが、県内でも希少になっています。そのほかネコノシタやスナビキソウの標本もありました。両種とも県内では珍しくありませんが、九十九里浜で見たことがありませんでした。あちこち探してやっと見つかるような種が、広くない範囲にそろって生えていたことになります。

シバナとヒメキンポウゲの標本もありました。いずれも塩性湿地(海水と真水が混じった水に浸かっている湿地)の植物です。シバナは現在県内では1か所、ヒメキンポウゲにいたっては、県内では絶滅していると思われる種です。これらの植物が九十九

里浜沿いに点々と生育していた古い記録は、いくつ
かあることから、かつて九十九里浜沿いに塩性湿地
が少なからずあったこととなります。塩性湿地は環
境が特殊なので、他では見られない珍しい生物が生
息します。そのような環境がいつの間にかごっそり
と消滅したようです。

かつてなぜこうも植生が豊かだったのか、現在な
ぜこれほどまで貧相になってしまったのか、たくさ
んの謎がわいてきます。本報告書の一部を、3月か
らの展示「九十九里浜の自然誌」で展示する予定で
す。ご興味ある方はぜひお越しください。

(由良 浩 千葉県立中央博物館)

カミツキガメ防除実施計画書を改定しました

千葉県では、印旛沼水系を中心に特定外来生物カ
ミツキガメの定着、繁殖が確認されています。カミ
ツキガメは他の生物への影響力が強く、生態系や人
の身体への被害が拡大するおそれがあることから、
平成17年に特定外来生物に指定されました。特定外
来生物の防除を行う場合には、防除を行う旨とその
実施方法等をまとめた防除実施計画書を策定するこ
ととされています。そのため県では「千葉県におけ
るカミツキガメ防除実施計画書」(以下計画書)を策
定し、環境省からの確認を得て、防除を行ってきま
した。

計画書は、これまで状況に合わせて3回の改定を
行ってきました。直近では平成29年3月に、根絶に
向けたロードマップや集中的な防除計画を取り入れ
た全面改定を行っています。

今回の改定では、前回に続き外来生物の防除に知
見を有する専門家などからなる「カミツキガメ防除
検討会」を設置し、令和元年度に実施した個体数推
定の結果を踏まえながら、これまでの防除事業の結
果及び課題等について、合計3回の議論を経て検証
を行いました。



防除検討会の様子

新計画では、過去の防除実績に基づく令和元年度
時点での生息状況を踏まえ、これからの5年間の新
たな防除目標を定めています。詳細は生物多様性セ
ンターのホームページをご覧ください。

新たな計画に基づき、カミツキガメの根絶に向け
て、引き続き取り組んでまいります。

(今津 健志 千葉県生物多様性センター)

いのち 「生命のにぎわい調査団員に聞く!!」③

身近な生物の調査を通じて、自然のこと、千葉県
の生き物のことを知ってもらうために、そしてどう
したら生物多様性を守っていけるかをみんなで考え
るために発足した、千葉県生物多様性センターの市
民参加プログラム・生命のにぎわい調査団。

(<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>)

この連載では、これまで調査団を支えてきた団員
の皆様にお話を聞いてまいります。第3回に登場し
て頂くのは、2009年以来、北総地域の鳥類を中心
に数多くの報告を寄せてこられ、「生命のにぎわい写
真コンテスト」で2度にわたって最優秀賞を受賞さ
れている、和田信裕さんです!

——— 生命のにぎわい調査団を知ったきっかけ
を教えてください。

2006年6月にブログを始め、載せる写真をちゃんと撮りたいと、身近な探鳥地や昆虫のことを調べている過程で調査団の存在を知ったのだと思います。

——— 生き物に対する興味や知識を、どのよう
に身につけられたのでしょうか?

ブログを始める前までは、野鳥や昆虫の詳しい知
識はほとんどありませんでした。ブログで知り合っ
た人たちに教えてもらったり、自分で図鑑やネットで調べて補ってきました。

——— 主に活動していらっしゃるフィールドは?

西部印旛沼と北部印旛沼でしたが、コロナ禍であ
まり出歩かなくなってからは、自宅からほど近い「た
るやまの郷」(四街道市)を中心に通っています。

——— 自然観察を続けてこられる中で、生き物
や生態系の変化を感じることはありますか?

野鳥は年によって飛来数が大きく変わるので、長
いスパンで捉えないといけません。例えば、「そういえば、
シーズン中に一度は見ていた〇〇は、ここ数年、姿
を見ていないな」と思うことがあります。例えばサ
シバ。人の手が入った田んぼの畔などでヘビやカエ

ルを捕らえられていたのが、耕作放棄地の荒れ方がひどくなり、舞い降りて捕食できない場所が増えたという印象はあります。

——— これまで報告されてきた中で、嬉しかった発見や驚いた発見があれば教えてください。

2010年1月に、たまたま行った海岸でユキホオジロを見つけたことですね。このときは、カメラマンが大勢押しかける騒ぎになりました。たとえ珍鳥を見つけたとしても、「他言はせず、いなくなるまで自然の成り行きに任せて、そっと見守る」というのが鉄則だと身をもって学び、今も実践しています。



ユキホオジロ

——— 団員になって良かったと思うことは？

団員間でマニアックな話が出て、未知の分野の知識を教えてもらえることですね。

——— 調査団以外では、生き物に関わる活動はどのようなことをなさっていますか？

「たろやまの郷」での野鳥観察を、2018年12月に前任者から引き継ぎ、年間200日近く歩き回って記録しています。2020年は年間で55種（新たな記録9種を含む）確認しました。毎月のまとめの一部をNPO法人四街道メダカの会のホームページに掲載しています。千葉市の「大草谷津田いきもの里」で、モニタリング1000の野鳥調査のお手伝いもしています。

——— これからの調査団に望むこと、改善してほしいことがあれば教えてください。

ほとんど目にする事が無い珍しい生き物の報告は、場所は伏せて、写真が見られるようにしてほしいです。また、ホームページの古い記事がそのまま載っているので、過去のトピックが容易にたどれるように整理した上で、更新を頻繁にしてほしいですね。

(取材構成・大島 健夫 千葉県生物多様性センター)

千葉県の外来種

クスベニヒラタカスミカメ



日本国内に生息するカメムシ目昆虫のうち、約100種が外来種であると考えられています。ここ千葉県でも、キマダラカメムシやマツヘリカメムシといった外来種のカメムシを目にする機会が増えてきました。そうした外来種のカメムシの中で、もっとも最近千葉県に侵入したと思われる種が、今回紹介するクスベニヒラタカスミカメです。

本種は中国の湖南省や上海周辺が原産と考えられており、現地でもクスノキの葉を加害することが知られています。日本では2015年10月に大阪府と兵庫県の市街地に植栽されたクスノキから多くの個体が発見され、それから数年のうちに東は関東から西は九州まで分布を拡大させました。千葉県でも2020年に浦安市と市川市で食痕が発見されたのを皮切りに、松戸市、千葉市でも確認され、青葉の森公園のクスノキでも所々で姿を見ることが出来ます。

体長は6~7mmほど、体は楕円形で平たく、頭部の後ろから胸部にかけてくびれること、背面に黄色と赤茶色が混交する模様を持つことが特徴です。本種に吸われたクスノキの葉には、錆びた鉄のような色をした斑点模様の食痕が無数に生じ、樹木そのものに対してのみならず、景観面でも悪影響があります。

クスノキは県内各地で街路樹や公園樹として広く植栽されているだけでなく、ご神木や記念樹として保護されている場合もあり、分布や被害の拡大が懸念されます。筆者は、本種の県内での分布拡大状況について、今後調査していきたいと考えておりますので、ご近所のクスノキから写真のようなカメムシが見つかりましたら、ぜひ情報をお寄せください。

(伴 光哲 千葉県立中央博物館)



生物多様性ちばニュースレター No.69 令和3年3月31日発行

編集・発行

千葉県生物多様性センター（環境生活部自然保護課）

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（千葉県立中央博物館内）

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <http://www.bdcchiba.jp>

